

歴史と文化の香りスポット

重伝建エリア

桐生新町重要伝統的建造物群保存地区

当地区は、1591年(天正19年)に徳川家康の命を受け、代官大久保長安の手代大野八右衛門により新たに町立てされた在郷町として発展。保存地区は、絹織物業を中心に発展した町、桐生を示す象徴的な地区でもあります。



MAYU

週末の観光に便利な低速電動コミュニティバス「MAYU(まゆ)」。
重伝建地区では有鄰館、まちなか交流館で乗降が可能です。
お問い合わせは 桐生市観光交流課(0277-44-0754)まで。



桐生の魅力を伝える観光ガイドの会
“織都桐生”案内人の会が案内します。
詳細は33ページへ!

わたなべ 華山
「渡辺華山と桐生」

江戸時代後期の武士であり、思想家、画家としても傑出した才能を示した渡辺華山は、妹である茂登が桐生に嫁いだ縁で何度か桐生を訪れました。なかでも1831年(天保2年)の滞在時の記録である「毛武遊記」には、当時の桐生の状況だけでなく庶民のくらしが生き生きと描かれており、華山の文才が遺憾なく発揮されています。

① 群馬大学工学部同窓記念会館・正門・守衛所
【国登録有形文化財】

1916年(大正5年)に建てられた、桐生高等染織学校の講堂および正面玄関の一部で、1972年(昭和47年)に敷地中央より現在地に移築、同窓記念会館として活用されています。建物は、木造二階建瓦葺、ハンマービームと呼ばれる独特の屋根構造を持ち、内外装から金具・調度品に至るまで建築当初の姿を残しており、教会堂のように厳粛でありながらも華やかな空間を創り出しています。

② 天満宮社殿【国指定重要文化財】
天満宮末社春日社【国指定重要文化財】

1591年(天正19年)桐生新町創設にあたり、現在地の遷座されたと伝えられています。社殿は、江戸時代の神社建築に多い権現造で、本殿と幣殿の外壁には極彩色の装飾が施されており、内部にも彫刻や壁画を持つ北関東特有の近世社寺建築の特徴を良く伝えています。また、社殿背後にある、一間社流造、銅板葺の小規模な末社春日社は、天正から慶長年間推定(1573～1615)とされています。
毎月第一土曜日には北関東一を誇る「天満宮骨董市」が日の出より開催されています。

見学の注意

ここに掲載された建物等については、敷地外からの見学が基本となります。プライバシーの保護、施設の管理上からも詳細な見学は別途所有者等の承諾を得てください。

③ 森合資会社事務所
【国登録有形文化財】

1914年(大正3年)金融業の建物として建てられました。屋根は銅板葺で、外壁に白磁タイルを使用した擬洋風の事務所です。



だいいちぶっさんはいはいじよ

④ 第壹物産賣買所(買場・上市場)

明治政府の殖産興業政策のもと、1882年(明治15年)に開催した七県連合繭糸織物共進会の会場として利用された建物です。その翌年に桐生物産売買所となり、現在は喫茶店として活用されています。

⑪ ベーカリーカフェレンガ

旧株式会社金芳織物工場【国登録有形文化財】

1919年(大正8年)に建築された桐生に現存する唯一のレンガ造のノコギリ屋根工場です。レンガ壁はイギリス積みです。事務所棟は、1931年(昭和6年)に建築され、木造二階建てスクラッチタイル張りで、窓や細部に至る意匠に昭和初期の洋風建築の特徴が見られます。二つを比較してみると、大正・昭和、各時代の流行の違いがよくわかります。



⑫ 旧斎憲テキスタイル工場(かない屋ワイン貯蔵庫)

1927年(昭和2年)に建築された、大谷石造のノコギリ屋根工場です。現在はかない屋のワイン貯蔵庫となっています。



⑬ 旧住善織物工場

1922年(大正11年)に建築された、桐生に現存する唯一の鉄筋コンクリート造のノコギリ屋根工場です。現在は、5人の作家(岡・金原・田中・平田・丸山)の一字ずつを組み合わせた命名した、「工房・金田丸岡平」として利用されています。

⑭ 一の湯

当時隣接する織物工場で働く従業員のために浴場として建築された銭湯です。一時閉業したものの、埼玉県から移住した現店主により再開。重伝建地区にて現役で稼働している銭湯は珍しく、地域の方から県外の方まで多くの入浴者の憩いの場となっています。

⑮ 平田邸【国登録有形文化財】

1914年(大正3年)(袖蔵は明治33年)に建築された建物で、この地域では平田邸と玉上薬局の2件だけのめずらしい蔵造りの店です。しつこい仕上げの壁と重厚な扉が美しさをいっそう引き立てています。

⑯ 桐生ものづくり協同組合

1804年(文化3年)に建てられたと伝えられおり、妻入りのえびす造りの店は、現存する幕末の町屋として貴重な建物で建物とともに江戸時代から続く業種商でした。現在は地元企業のみならず県内企業の外国人材の受け入れをサポートする桐生ものづくり共同組合の事務所として使われている傍らで、桐生のフラッグシップ的なイベントに使用されている建物です。

⑰ 有鄰館(旧矢野蔵群)

【市指定重要文化財】

⑱ 矢野本店店舗及び店蔵
【市指定重要文化財】

二代目矢野久左衛門が1749年(寛延2年)に現在地に店舗を構えて以来、桐生の商業に大きく寄与してきた土蔵等建物群です。現存する土蔵やレンガ蔵は、酒類・味噌・醤油などの醸造を行ってきたところで、江戸から大正期に建築されました。

⑲ 桐生からくり人形芝居館

明治から昭和時代、桐生天満宮御開帳で上演されました。日本芸能史を物語る貴重な文化遺産です。



近江屋喜兵衛

本町通り

桐生歴史文化資料館

糸ひす通り

北小学校

重伝建地区の範囲

A 15ページの人物にゆかりのある場所

⑥ 旧北川織物工場

このノコギリ屋根工場は無鄰館とともに旧北川織物工場でした。ノコギリ屋根工場は均一な自然光を取り入れるために北側に向けて建てられますが、この建物は採光面を南東に向けて建てられていて、市内でも珍しいノコギリ屋根工場です。

⑦ 桐生市重伝建地区公開活用施設
(まちなか交流館)

明治初期に建てられた、織物業を営んできた代表的な屋敷形態を留め、桐生の織物業の繁栄と往時の姿を残した建物です。重伝建地区のにぎわい及び交流を創出し広くその魅力を発信するための拠点となる施設です。



⑧ 旧曾我織物工場【国登録有形文化財】

1922年(大正11年)に建築された、大谷石造のノコギリ屋根工場です。北西方向に採光面を設け、通風の丸窓飾りが特徴です。

⑨ 旧書上酒店(大風呂敷)

明治後期に建てられた旧書上酒店を1997年に同店に残っていた写真を元に再生した建物です。

⑩ 旧書上商店(花のにしはら)

明治期の桐生を代表する買継館「書上文左衛門」の商店店舗です。書上商店は、1892年(明治25年)に横浜に支店をつくり、織物輸出業を開始、1906年(明治39年)には上海へも出店しています。この建物の北西周辺にある蔵群は、かつては同商店のものであり、この一角で1952年(昭和27年)から1955年(昭和30年)まで作家坂口安吾が生活をし、この地でその生涯を終えました。

⑤ 旧北川織物工場(無鄰館)
【国登録有形文化財】

敷地内の建物群は大正時代を中心に建築されたもので、ノコギリ屋根工場をはじめ、主屋、土蔵等が奥行き40間の地割の中に良好に残されています。北東側には、焼失したレンガ耐火塙が今も残っています。

